

エクラ ウェディング

2005年12月24日のクリスマスイブに小野市うるおい交流館エクラで、初めての結婚式が開かれました。

結婚されたのは、小野市在住の、芝本芳生さんと松岡則子さんのお二人です。小野市で生まれ育ったお二人は、「地元で挙式を」と考え、エクラを選ばれました。また、「お世話になった人たちに感謝の気持ちを込めた手作りの結婚式をしたい」というお二人の思いもありました。ウェディングケーキや会場設営、装花は、お二人のご友人によって演出されました。

午前11時30分よりハートフルサロンで、85人の参列者が見守る中、人前式が行われました。お二人の交際のきっかけは、小野市の友好都市アメリカ・リンゼイ市の交換訪問団に参加されたことでした。この日、リンゼイ市特命親善大使の加来ゆり子さんもアメリカから駆け付け、立会人を務められました。

結婚式終了後、会場をエクラ大会議室に移し、披露パーティー。新郎新婦のケーキカットのときに、もう一つケーキが用意され、新郎のご両親と一緒にケーキカットをされました。ご両親はたいへん驚かれ、また感激された様子でした。

エクラホールで披露パーティーの第2部を開き、新郎新婦が入場した後、今度は新婦のお母様がウェディングドレスで、お父様のエスコートで入場され、会場には大きな拍手が沸き起こりました。今回の結婚式のテーマは「サプライズ」だったそうです。3組のカップルの披露パーティーでは、新郎は自らバンド演奏を披露されました。その後、新婦がご両親への感謝の手紙を朗読



され、心温まるパーティーとなりました。ハートフルサロン、大会議室、エクラホールとシチュエーションに合った雰囲気の中で進行できた、エクラならではの結婚式でした。

形式にこだわらない、お二人らしいアイデアとセンスで素晴らしい式になったのではないのでしょうか。

小野市に結婚式場として利用できる施設ができたことに加え、さまざまなウェディングのスタイルがある中でエクラを会場として利用することで、新たな「結婚式」の選択肢ができることを期待しています。支援センターでは今後も、結婚式、披露宴を積極的にお手伝いさせていただく予定です。

講談で綴る「ふるさと小野」音楽絵巻

地域住民（大人から子どもまで）が自分のまちの良さを再認識し、また、まちの良さをエクラから広く発信する機会にしようと、「歴史を知る会」のみなさんのご協力を得て、小野市の「長祿の変」をもとにした講談を、バロック時代の美しい楽器チェンバロと弦楽器で奏でる室内楽とを組み合わせた舞台作品を「ふるさと音楽絵巻」と題して開催いたしました。

今回開催した「音楽絵巻」は、創作講談と音楽演奏の新しい出会いです。



●実力派講師の旭堂南左衛門さん

講談のストーリー展開の中に、様々なクラシックの名曲が織り込まれる…ストーリーはすべてその土地ゆかりの物語を題材にしています。昔なら「大人も子どもも、よく知っている」はその地元の物語。しかし家庭でのそういった会話がなくなったといわれる現代、失われた「日本人らしさ」、そして「これからの日本人らしさ」…それを追求したのが中野順哉の創作講談です。またそれをベースに、中野振一郎率いるコレギウム・ムジクム・テレマンの音楽による「創造性」を加味した舞台、そして講師旭堂南左衛門が織り成す歴史ロマンです。洋の東西を超越した「新しい芸術」の可能性を感じさせてくれた舞台となりました。3月26日(日)「新しい芸術」が、ksks Arche (NPO法人 北播磨市民活動支援センター)から誕生いたしました。



●史跡を見学に行きました

エクラでスウィング!

エクラはビックリ箱だ。見た事も聞いた事も無い世界と出会う。

10月28日、世界的なトランペット奏者・日野皓正がエクラにやってきた。黒の革ジャンで舞台上に現れトランペットに息を吹き込むや、自由自在なクイントのかけ合いがホールを満たしていった。

その熱いスウィングに、客席の身体が揺れ始めた頃だ。グランドピアノに近づいていった日野さんは、ピアノの弦めがけてトランペットから息を送り込んだ。突然、不思議な音に包まれた。

ペダルを踏んでいるだけのピアノが鳴っている。まるでホール全体が水琴窟にでもなったかのように。



●日野皓正JAZZ LIVE

澄んだ音色が、確かにメロディとなって伝わってくる。ソクソクした。

「なんにもないところに、エクラあるなあ」

トークはいきなり始まった。ボケたふりしてメンバーを紹介し、ひょうきんに今の世を憂い、CDの売り込みも茶目っ気たっぷり。楽しいキャラクターはとどまるどころがなく飛び出してくる。見事なタップを披露したかと思うと、唸りのようなソウルを聴かせる。まるでドラエモンのポケットのように次から次へ。

最後の「川の流れるように」は、モダンジャズでは、こうもなる、ああもなるの熱演で、客席はそのパワフルなサウンドに酔いしれていた。

「お猿やな」

終演後、楽屋前で日野さんはバナナを食べながら楽しそうにタップをふんでいた。あれだけトランペットを吹き続けた後とは思えない。

エクラは世界的なアーティストの顔が身近に感じられる、そんなホールだ。

恒例になったお見送りの時、ボランティアスタッフと職員が口々に「ありがとうございました」と頭を下げると、「いやあ、こんな見送りをしてもらおう事ないでえ」

車に乗り込んだ日野さんは驚いたようにそう言って、笑顔で帰って行かれた。



子育て支援事業

「香りあるフラワーアレンジメント」

子育て中の方にもエクラを利用して講座に参加していただこうと、クリスマスアレンジメント作りが、12月12日にサークル室A・Bで行われました。アルシェ子育て支援委員会が、託児付きレッスンでリフレッシュしてもらおうと企画運営し、ガーデニング委員会の田中佳代子さんの指導で、「色と香り」生活循環型のまちづくりをテーマにガーデニングボランティアの協力で、苗作りから育てた地元の植物（ローズマリー、オリーブ、月桂樹の葉）など、生活の中で使ってもらえる材料を使ってつくりました。



20代から30代の子育て真っ最中のお母さん15名が参加され、「エクラに来たのが初めて」という方が、6名いらっしゃいました。16名のお子さんの託児があり、サポーター10名が託児ルームとスタジオAに別れ、子ども達のお世話をしました。初めてのフラワーアレンジメントにお母さん方は、子ども達のことを心配しながらも、真剣にとりくまれました。針金のハンガーに月桂樹の葉やオリーブ、ローズマリーなど差し込んでいき、色とりどりのリボンで飾ったり、かわいいクリスマススモックを付けたりと、それぞれ思い思いの素敵なクリスマスアレンジメントが完成しました。また、途中託児サポーターより「子ども達は、泣かないで遊んでいますよ」との報告を聞き、安心して作業を続ける姿も見られました。



参加されたお母さん方に感想をお聞きすると、「大変よかった」「次回も是非参加したい」と大好評でした。

2月には「YOGAで心もからだもリフレッシュ!」と題してヨガの講座も行われました。子育て中のお母さん方が子どもを安心して預け、参加することにより託児ルーム「ちびっこバク」の利用度が高まることを期待していきたいです。



※託児委員会は、さらに活動の幅を広げるため、「アルシェ子育て支援委員会」に委員会名を変更しました。